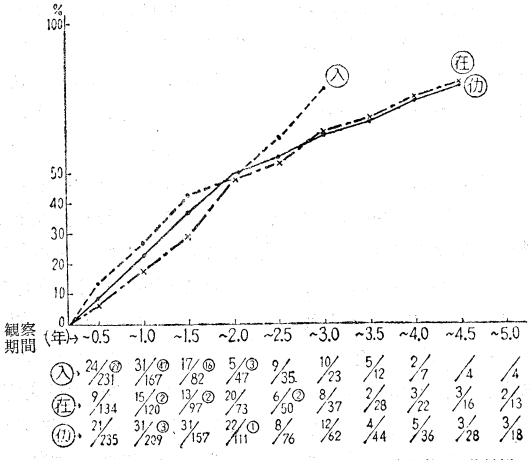
が，偶発症，死亡率等は一般と大差なく，排菌の陰性化率においても劣らない結果を得た。これら症例の調査にあたり特異に感じたことは，合併症ことに気管支瘻を併発した患者は，その外観が年令以上に老化してみえるものに多発している点であつた。すなわち個体の老化の程度は各因子について可及的精密に測定すべきはもちろん視診による判定も軽視できないと思う。以上のごとく，50 才以上の手術例も成績は悪くないので，単に高令のゆえのみで除外せず，生物学的年令を決定づける諸元を総合判定して手術の適応範囲を拡大すべきである。

〔特別発言〕 **老人結核**　石原国（鳥大）

訂　正

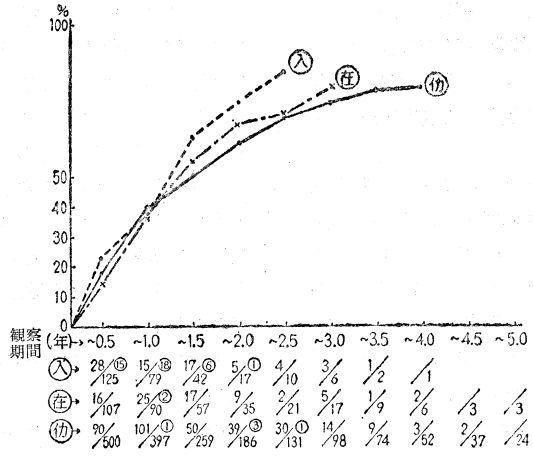
第 37 巻 第 7・8 合併号の 406 頁に図の入れ違いがありましたので下記のように訂正します。

図表 3　CB 化累積率（全観察期間）
—化学療法開始時 BB 型—



注：分子は CB 化例，○でかこんだ数字は外科療法への移行例。

図表 4　CB 化累積率（全観察期間）
—化学療法開始時 BC 型—



注：分子は CB 化例，○でかこんだ数字は外科療法への移行例。